

現代パレスチナにおける抵抗とアイデンティティ

—社会生活と伝統を通じて—

平成25年入学

派遣先国：ヨルダン王国、パレスチナ自治区（イスラエル）

山本 健介

キーワード：パレスチナ、ハリール（ヘブロン）、アイデンティティ、抵抗

対象とする問題の概要（～400字）

私の研究内容は、現代パレスチナにおけるイスラエルに対する抵抗運動の現状を考察することである。現代パレスチナでは、特に1948年のイスラエルの建国以降、アラブ諸国、パレスチナ人組織とイスラエル国家との間で多数の戦乱が生じてきた。1993年に、結ばれた「オスロ合意」は、戦乱の歴史の終結を予感させるような出来事であったが、そこで約束された独立パレスチナ国家の樹立は未だ果たされな

いままでである。オスロ合意以降のパレスチナにおいて、最も大きな問題は、オスロ合意に続く和平プロセスがパレスチナ国家の樹立に繋がるような枠組みをもはや提示していないにも関わらず、オスロ合意で規定された構造、すなわちイスラエルによるパレスチナ自治区への占領政策の制度化という部分のみが残ってしまったことである。このような圧倒的に不利な力関係の中で、パレスチナ人の抵抗運動は現在どのような状況にあるのか。それが私の研究上の問題関心である。

研究目的（～400字）

上記のような問題意識がある中で、私は特にパレスチナ自治区のハリール（ヘブロン）におけるパレスチナ人の抵抗運動の実態について明らかにすることを目的としている。パレスチナ人の抵抗運動は、国家の樹立を求める和平路線、武装闘争による領土の解放を目指す武装闘争路線ともに、行き詰まりを見せている。そのような状況下でも続けられるパレスチナ人の抵抗運動は、将来の子孫に祖国解放の希望を託すという形をとっている。

なかでもハリールは、活発な次世代形成と独特の産業、農業などの伝統で知られており、彼らはハリールに住むパレスチナ人として、特別に「ハリリー」と呼ばれられる。ハリールは、活発な次世代形成によるパレスチナ人の再生産と、ハリリーとしてのアイデンティティの保持という二つの側面から、抵抗運動を実践している町として位置付けることが可能である。

フィールドワークから得られた知見について（～800字）

私は始めに、ハリールにおけるアイデンティティの形成・継承を論じる上で、ナショナルな規模で行われる公教育ではなく、ハリールのローカルな規模で展開される教育に関心を寄せていた。そこでハリールにおいて教育活動に従事している社会活動組織を訪ね、教育内容や組織運営について調査した。しかしハリールにおける社会活動組織による教育も全国規模行われる公教育と差異はないことがわかつ

た。

そこで次にハリール・アイデンティティに影響を及ぼす可能性のあるものとして、ハリールに特有の産業や農業に着目し、調査を再開した。特にハリールにローマ時代から根付くとされるガラス・セラミック産業は、ハリールについて論じる上で欠かすことの出来ない要素である。このガラス・セラミック産業の中でも特にガラス工芸は、ハリール・ガラスと特別に呼ばれるほどの価値がある。このハリールという町がイスラーム第四の聖地として知られる所以であるイブラーヒーム・モスクの装飾にもこのガラス工芸の技術が用いられている。加えて、ハリールの旧市街にはガラス職人に因んだ地名もいくつか存在し、ガラス産業は町の歴史とも密接な関わりを持っている。

このように、当初はハリールにおけるアイデンティティ形成・継承というテーマをローカルな歴史教育から考察する予定であったが、その点については、今回は予備調査に留まった。その代わりに、産業や農業などにもトピックを拡大させることが可能となり、豊かな成果を得ることができた。このような地域の不測の事態に直面し、対処することも、これから地域研究を進める上で非常に重要な経験となったように思われる。

今後の展開・反省点(～400字)

今後の反省点の最も大きなものは、語学力の問題である。パレスチナ自治区における調査を始める前に、ヨルダン王国にて語学研修を行っていたが、そこでは、アラビア語の「書き言葉(フスハー)」と「話し言葉(アンミーヤ)」の中の、書き言葉を中心に行っていた。話し言葉も簡単な日常会話をこなすレベルには達していたが、現地の人々の早口な会話は理解できないことが多く、今後も研鑽が必要であると感じられた。

そのような意味で今後の課題は、問題意識をより先鋭化させ、研究テーマを絞っていくことに加え、次回のフィールド調査に向けて、アラビア語の書き言葉のみならず、調査で必要となる話し言葉の練習にも力を入れていきたいと考えている。



エジプトのクーデターに抗議するデモ(ヨルダン・アンマン市、2013年8月16日)



シャリーア男子学校の授業風景（パレスチナ自治区・ハリール市、2013年9月10日）



ナトシャ・ガラス・セラミック工場（パレスチナ自治区・ハリール市、2013年9月12日）



ブドウのジュース作り（パレスチナ自治区・ハリール市近郊のベイト・ウマー村、2013年9月19日）